

開催日時：平成29年2月14日（火）13:00～16:00

開催場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

釧路湿原自然再生協議会 第3回地域づくり小委員会 議事要旨

■議事1：ワークショップ

地域づくり小委員会参加委員の活動内容の情報共有について

○各班から出された活動内容や釧路湿原で知っていることなどの情報の主なもの

- ・ ツルの絵画展、JALのツル絵画展、子供の絵画展（釧路管内）
- ・ カヌーでの野生生物観察（釧路川）
- ・ カヌーの安全対策としてリスクマネジメント講習の実施（釧路川）
- ・ タンチョウの交通事故多発地帯（標茶町）
- ・ イトウ保護条例制定へ向けて活動（釧路川流域）
- ・ 観光資源としてのニジマス放流（屈斜路湖）
- ・ 国立公園クリーンデー、ゴミ拾い（鶴居村温根内、細岡展望台）
- ・ JICAの湿原をテーマにした研修
- ・ 事業所や従業員に湿原にゴミを捨てないように啓発グッズを配布
- ・ 釧路川環境調査（植物・動物など）
- ・ ヌマオロ地区旧川復元
- ・ 釧路湿原の魅力をPRするスーパーハイビジョン映像の撮影・番組制作・展示上映
- ・ オオハンゴウソウなどの外来種防除
- ・ 海外の湿原との連携（アジア・オーストラリア・中東）
- ・ 釧路湿原での自然散策ツアーガイド
- ・ シャケ稚魚の放流式、シャケ稚魚の里親
- ・ 冬期にトイレが使えない。トイレが少ない

■議事2：ワークショップ

地域づくり小委員会で議論したい内容等について

○各班で議論された主な内容

- ・ 釧路湿原に人を連れてくると、とても良いところだと言われるが、本州の人や北海道の人にも釧路湿原が知られていない。釧路湿原国立公園30周年のイベントで、札幌市の地下歩行空間などの場所を借りて、パネル展や自然保護官などの説明会などを開催してはどうか。無料で借りられるところに手を付けた方がいいと思う。

・土砂の流入が一番の課題であり、住んでいる人の意識を変えなくてはならない。農協や森林組合を活かしながらやっていきたい。ある程度法的な拘束も必要である。産業と環境は一体だということで、みんなで考えていきたい。

・湿原の利用に関するルール作りについては、今あるルールの周知をやった方が良いのではないか。具体的にはツルを見るツアー会社の企画担当者へルールを周知してパンフレットに盛り込んでもらうことや、湿原利用のルールの普及方法の検討、美観を損ねない看板の設置に取り組んではどうかという話があった。方法としては、例えば鶴見台などで、ツアーバスの中で、バスガイドに、ツルがびっくりしないよう大きな声を出さないなど、ルールを事前周知してもらうのが良いというような話もあった。

・目標としては、持続可能なシステムを地域で構築することであり、観光と環境のバランスのとれた地域振興はどうしたら出来るのかということ。課題としては、多様化する観光をうまく取り込むために、ガイドの資格制度を設けて長期的に育成することや、観光客のやりたいアクティビティーにマッチングした情報発信、観光インフラづくりとしてトレッキングルートの整備、カヌー業者の組合を作って協力し合えないかなどのお話が出た。また、環境と観光を両立していくための財源として、入場料の徴収や、マップやグッズなどに自然保全料を含んではどうかという案もあった。

・英語を話せるガイドはいるが、中国語や韓国語などを話せるガイドが少ないので、マルチな言語を話せるガイドの育成が必要。また、観光に関しては、情報発信サイトの一元化や、湿原祭り・カヌーマラソンなどの効果的なアピール、湿原保全にサポーターとして参加している方への湿原保全サポーター証の発行、釧路湿原での飛行船や気球などの話が出た。ガイドラインの関係では、ドローンやイトウ、サンショウウオなどに関して、何か出来ないかと考えている。

・観光に関しては、釧路川の方に岩保木から水を流したい・カヌーで下りたいということや、弟子屈から標茶の間や国立公園内にトイレが足りないので、長期的な観点で、計画的にトイレを作っていく必要がある。また、今あるトイレで期間限定や時間限定のものがあるので、使える期間を延ばすなどの工夫が出来ないかという意見があった。このほか、観光情報の一元化や冬季の外国人観光客の移動手段の確保、お勧めの観光ルートを作ったの発信、釧路の人や子供たちがカヌーに乗っていないことの改善などの話もあった。ルール化については、ガイドのレベルや内容を統一するためにマニュアルや資料の提供が出来るのではないかという話があった。

・課題としては、「住民全員が釧路湿原を知っている釧路地域をつくる」ということで、その目標達成のためには、人材の育成や、専門知識を持った人や機能の有効活用が必要。また、釧路湿原で行っている自然再生事業の取組の結果や成果が、地域の人々の暮らしなどに還元していく仕組みも必要という話があった。このほか、湿原検定や今よりも密

度の濃い釧路湿原を紹介する冊子の作成や、子供たちや地域の人たちが釧路湿原に触れる機会が少ないので、学校行事や湿原に行く手段の確保が必要であるとの話があった。

■まとめ

(委員長)

・今日は色々な意見が出たので、発展させて、さらに色々なことを考えて次の取組につなげていってもらいたいと思う。

これから事務局と相談して、今日出たことをもっと深めるためにはどうしたら良いか考えながら、色々な形で議論し、取組を深めることに繋げて行ければと思っている。

(委員長代理)

・今日出たワークショップの中身を事務局にまとめてもらい、それを踏まえて具体的にどんな事業をやろうということについて、これから議論することになると思う。議論の進め方もまだはっきり決まっていないので、皆さんから提案などを頂ければと思っている。皆さんが顔をつきあわせて議論できる方法がいいと個人的には思っている。